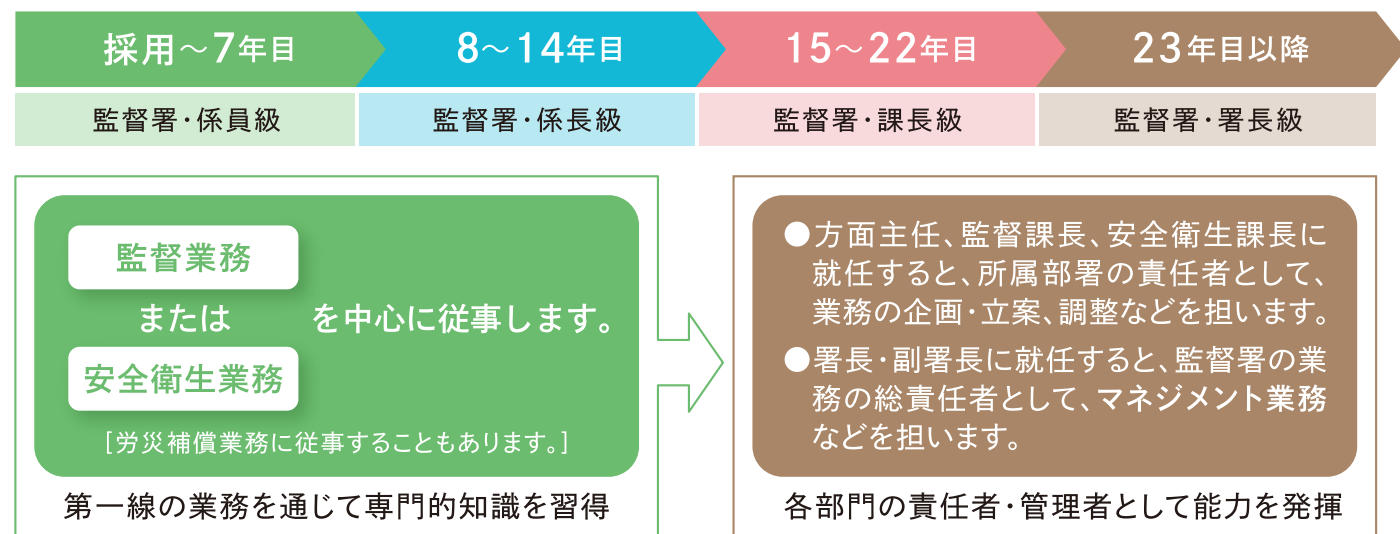
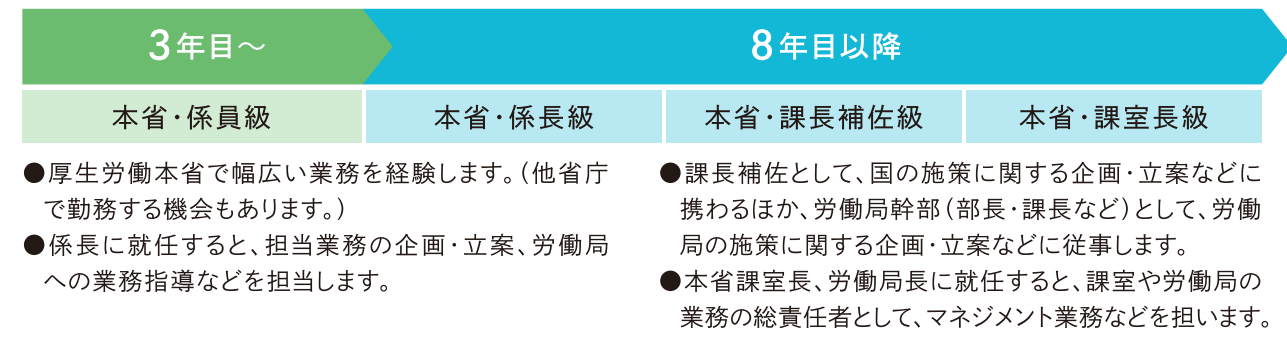


キャリアパス制度



厚生労働本省で勤務する場合

※本人の希望に応じて、採用後3年目以降、厚生労働本省で勤務するという選択肢もあります。
 ※係員級での本省勤務後は、本人の希望を踏まえ、採用された労働局で再び勤務する場合と、引き続き本省で勤務する場合があります。



////////// 現在のキャリアを踏まえた 先輩監督官としてのメッセージ //////////

労働基準監督官にしかできない仕事

私は労働基準監督署で監督指導業務に従事後、厚生労働本省で全国的に実施する業務の企画・立案を行い、現在は大阪府の監督指導業務を統括していますが、その中には私が本省勤務時に立案した仕事もあります。このように、監督行政は監督官が上流から下流まで一貫して携わり、一枚岩となって、働く方の権利保護を図っています。

働く方一人一人のあたりまえの日常を守るために、全国津々浦々で監督官が奮闘しています。監督官にしかできない、社会に必要とされる仕事をしてみませんか。

様々な経験を積むことができる

私は現在、監督・安全衛生部署を統括する立場として署内業務の進捗管理や部下へのアドバイスをを行うほか、自らも担当官として監督指導業務を行っています。事業主の方とお話しをする際には、どのように説明すれば理解してもらいやすいかということを常に意識するようにしています。

労働基準監督官の仕事は定期的な監督指導業務のほか、相談対応、許認可の調査、司法事件の捜査や説明会での講演など多岐にわたります。これらの業務を通して様々な経験ができることも監督官の魅力の一つです。監督官の仕事に少しでも興味を持っていたら幸いです。

働く人の「当たり前」を守る特別な存在

現在、地方労働基準監察監督官として、監督署への監察業務等を通じて、労働基準監督官の業務水準の維持・向上を図り、権限が公平・公正に行使されるよう、各労働基準監督官に助言、指導を行っています。

労働基準監督官の仕事は、社会の「当たり前」を守ることで、そこには多岐にわたる役割と魅力があり、常に成長を実感できます。

世界的企業のオフィスから地下トンネル工事現場まで多種多様な職場に立ち入り、ときに、悪質な事案に対して司法警察権限を行使するなど、皆さんの想像の斜め上に行く仕事です。

まさに「暮らし」を支える仕事です

労働基準監督官の任務は、違法な長時間労働や重篤な労働災害を撲滅し、全ての働く方々が健康に、安全にお仕事に取り組める環境を確保することです。

私は本省の監督課で、社会的な問題に対して、また、労働局からの照会に応じて、労働基準法など関係法令の解釈を整理する業務を担当しており、最前線の労働基準監督官が円滑に任務を遂行できるようサポートしています。

その上で、心がけていることを一つ。それは、私たちの日々の生活は、働く方一人一人のお仕事によって支えられている、ということです。

私たち労働基準監督官の取り組みは、全て、明日の「暮らし」を支えることにつながっていきます。

労働基準監督官のキャリアステップ



あなたの熱意と
好奇心が働く人を
ハッピーにする

東京労働局
中央労働基準監督署長

白浜 弘幸
SHIRAHAMA HIROYUKI

平成3年度任官

令和4年4月 池袋署長
令和5年4月 東京労働局
総務部総務課長
令和6年4月 渋谷署長
令和7年4月 中央署長(現職)

(採用後) 8年目 (平成10年4月～11年3月)
[所属] 渋谷労働基準監督署 [職名] 労働基準監督官

建設現場で、手すりなどの墜落防止対策がない危険な高所から墜落し、大けがをするという災害が発生しました。責任者は被災者の実父で、墜落防止対策を怠った責任者としての不安全行動が息子に危害を及ぼした悲惨な災害でした。当時、調査のため入院先に被災者を訪ねた時、私は車椅子の被災者を押す父親の姿を見かけました。息子を見つめる父親のその何とも悲しげなまなざしに、私は労働基準監督官として災害防止の重要性を再認識したのです。

(採用後) 30年目～31年目 (令和2年4月～4年3月)
[所属] 東京労働局総務課 [職名] 総務企画官

労働局内における新型コロナウイルス感染防止対策の担当となりました。職員に感染者が発生すると、消毒指示、濃厚接触者の特定、感染状況の記者発表等々、対応すべき業務が実に様々ありました。私を含めた各担当は、未経験の不慣れな業務を手探りで進め、お互いに協力することで何とか難局を乗り切ることができました。協力することの重要性を感じた貴重な経験でした。



Message
皆さまへメッセージ

「働くこと」は、ずっと存在してきましたし、これからも存在し続けるでしょう。職場には、実に多様な人々が集い、様々な労働問題が発生しています。これらの問題にリアルに対峙できることが、監督官の仕事の醍醐味です。熱意と好奇心を持って取り組めば、様々な問題に、よりよいアプローチが可能となります。この積み重ねが、ひいては働く人をハッピーにし、自らの職業的満足にも繋がるものと信じています。熱意と好奇心に溢れる皆様の応募をお待ちしています。

採用

5年

10年

15年

20年

25年

30年

35年

(採用後) 24年目～25年目 (平成26年4月～28年3月)
[所属] 東京労働局監督課 [職名] 地方労働基準監察監督官

労働局の業務は、労働基準監督署で行ってきた個別事案の処理とは違いました。業務の中心は、本省指示を踏まえて労働局として監督行政をどのように展開していくのか、労働局の立場で労働基準監督署にどのような支援が可能か等々の管理面について考え、実行することでした。この時期に大局的視点から行政を捉えることの重要性を学び、行政官として一回り成長することができたと思います。

(採用後) 35年目～ (令和7年4月～)
[所属] 中央労働基準監督署 [職名] 署長

署長の中心業務は、①労働基準監督署の顔として関係団体等に対し、行政施策に対する理解や協力を求め、行政をスムーズに展開する役割を担うこと、②対外的又は対内的業務の問題点を把握分析し、その改善を図ることだと考えています。一つ目の直近の取組として、各関係団体と協賛の「中央健康推進大会」を開催し、大盛況のうちに、管内の事業主や労働者に健康管理の大切さをアピールしたことを挙げたいと思います。

キャリアパスを支える研修制度



労働基準監督官は、採用後1年間、基礎的研修・実地訓練を受けます。この間に研修所(労働大学校)やオンラインなどで実施される中央研修を約2か月間にわたり受講することになります。このほかキャリアに応じて中央研修が実施されます。

研修期間の例

4月～5月中旬	5月中旬～6月中旬	6月中旬～8月下旬	9月上旬～10月上旬	10月上旬～3月
1 実地研修(前期)	2 中央研修(前期)	3 実地研修(後期)	4 中央研修(後期)	5 実地訓練
監督署(局)で1.5か月	研修所等で約1か月	監督署(局)で2.5か月	研修所等で約1か月	監督署で6か月

主な研修科目

主に座学を中心に労働基準監督官の役割や関係法令など基礎的な知識を習得します。

1 実地研修(前期)

- 労働基準行政(監督業務、安全衛生業務、労災補償業務)の概要
- 署内業務の実務補助、監督指導の同行など



2 中央研修(前期)

- 一般法学(民法)
- 労働基準関係法令(労働基準法、労働安全衛生法など)
- 監督業務(労働基準行政と監督制度など)
- 安全衛生業務(安全・衛生の基礎知識、機械の安全対策など)
- その他(ビジネス基礎など)

◀一般法学受講風景

3 実地研修(後期)

- 相談、各種届出等の実務対応
- 監督業務、安全衛生業務、司法警察業務等の実務補助など



4 中央研修(後期)

- 一般法学(刑法、刑事訴訟法)
- 監督業務(監督指導実務、未払賃金立替実務など)
- 安全衛生業務(災害調査実務など)
- 司法警察業務(実況見分実務、取調実務など)
- その他(集団討論など)

◀災害調査実務受講風景



佐賀労働局
佐賀労働基準監督署
労働基準監督官

山本 琉太郎
YAMAMOTO RYUTARO

令和7年度任官

試験区分
労働基準監督A

Q 研修を受講して印象的な科目は?

司法実務演習です。労働災害発生現場の実況見分や取り調べの実務演習(ロールプレイ)を通じて、法律のどの条文に違反するかの検討方法や具体的な捜査手法などを学ぶことができました。

Q 新監研修・実地訓練を経験して採用前と比べて成長できたと感じることは?

法律の知識だけでなく、実践形式で行う演習を数多く経験できたことで、実際に労働基準監督署で窓口や電話に出た際に慌てることなく、落ち着いて対応をする力を身につけることができたと感じています。



広島労働局
福山労働基準監督署
労働基準監督官

金子 乃彩
KANEKO NOA

令和7年度任官

試験区分
労働基準監督A

Q 研修生活の雰囲気は?

研修講義中は全国の同期と積極的に意見交換しながら演習に取り組み、実務に必要な知識の習得に励みました。講義終了後や週末は、研修生同士で外出をして交友を深めたり、自習をして研修内容の理解を深めたりなど、時間を自由に使い、自分のペースで研修生活を楽しむことができました。

Q 新監研修・実地訓練を経験して採用前と比べて成長できたと感じることは?

労働関係法令の内容に加えて、社会でそれらの法律がどのように作用しているのかについて理解が深まったことで、労働基準監督官が社会に与える影響の大きさについて常に意識しながら業務に臨めるようになったと感じています。